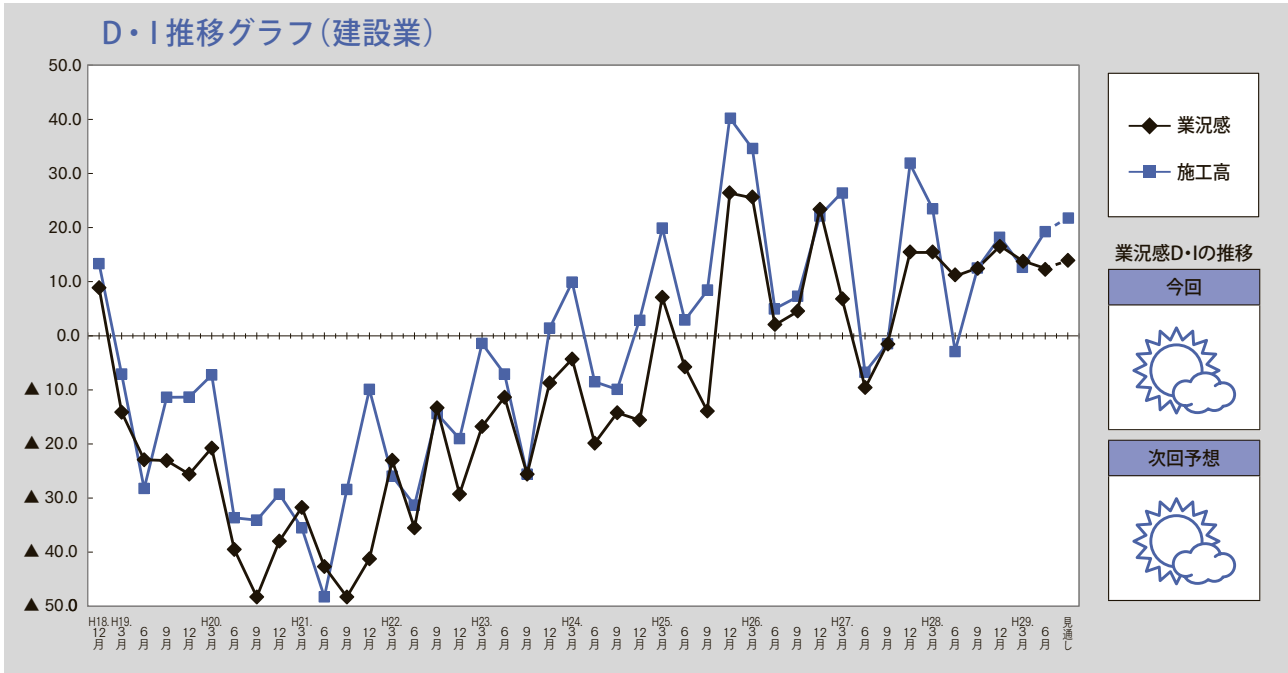


# 建設業

Construction industry

# 業況感高水準で推移



## 1 今期 (平成29年4 - 6月期)

建設業の業況感は、今期12.5 (前期13.9)となり、前期比1.4ポイント悪化するも、D I 値は二桁のプラスを維持しており、依然として高い水準で推移している。

施工高、収益ともに、高水準を維持しており、全体の業況感にも表れていると考えられる。一方で、前期改善された材料価格は再び悪化、高止まりしている。また、雇用についての不足感も慢性的かつ大きなものとなっている。

## 2 来期の予想 (平成29年7 - 9月期)

引き続き好調が予想される施工高、収益に支えられ、業況感も13.9と二桁を維持する見込み。一方、材料価格の高止まりなどから、資金繰りについては「やや苦しい」と予想する回答が増加している。なお、雇用については30.1と過去最高の不足感が予想され、建設業における人手不足は深刻なものとなっている。

## DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H28.6月期	H28.9月期	H28.12月期	H29.3月期	H29.3月期	来期見込み
業況感	11.1	12.5	16.7	13.9	12.5	13.9
施工高	▲ 2.8	12.5	18.1	12.5	19.2	21.9
収益	▲ 4.2	8.3	16.7	15.3	12.3	15.1
請負価格	4.2	8.3	4.2	5.6	11.0	2.7
材料価格	▲ 23.6	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 15.3	▲ 24.7	▲ 23.3
在庫	▲ 6.9	15.2	▲ 5.5	▲ 5.6	3.0	▲ 4.1
資金繰り	▲ 19.4	▲ 4.2	▲ 9.7	▲ 15.3	▲ 12.3	▲ 11.0
人手	9.7	13.9	13.9	27.8	24.7	30.1
設備状況	4.2	4.2	▲ 2.8	8.3	8.2	8.2

## 業況調査メモ

鹿児島県内の2016年度の新設住宅着工戸数は、前年度比1.0%減の1万1025戸だった。この10年余りの推移を見ると、05年度の1万3521戸から減少傾向をたどり、09年度に8241戸で底を打ち、12年度に1万0048戸と1万户台を回復。以後、消費税が5%から8%へ引き上げられた14年度の9931戸を除いて1万1千戸台で推移している。ちなみに16年度の構造別では木造率が65.2%で、09年度以降はここ8年間、60~66%で推移している。この間の全国平均の木造率55~56%に比べると鹿児島県は10ポイント近く上回っており、木造志向の強い県民性がうかがえる。